

発行：(福) 十字の園本部事務局  
理事長 平井 章

住所：〒431-1304  
静岡県引佐郡細江町中川 7220-11  
tel 053-439-9100  
fax 053-437-1352

社会福祉法人 十字の園

# ぶどうの木

(ヨハネ福音書 15章)



## 「社会福祉施設防災の日」

—アドナイ館施設防災訓練—



### ■ 他人事でない高齢者介護 ■

アドナイ館館長 宮岸 孝一



十月中旬、故郷北海道の義母から「義父の身体に異変が起きた」と電話による連絡が入った。次回病院の検査日に家族を連れて来るように話があったとの相談ごとである。

振り返って見れば、静岡に来てもう何年も帰郷していなかった。末娘が小学生の頃であっただろうか、そんな理由で十数年振りに妻と末娘と三人で故郷に帰る機会を得て、両方の両親の生活状況を見て来ようと旅立った。

名古屋空港から一時間半、千歳空港に到着。山々は紅葉し空気もひんやりしていた。

夕刻前に実家に着くと二人して笑顔で「よく来たな」と迎えてくれた。年齢も八十歳を超え、髪も以前よりズーッと薄くなっていて。夕飯は、北海道の味覚を用意してくれご馳走になった。翌日は診察日のため同行し、医師によるインフォームドコンセントを受け手術の必要性を聞いた。昔は、身近に兄弟や子供たちが居て、親の面倒を看るのは当たり前前の時代、しかし今は看たくても簡単に来ない現状の中でジレンマとの戦いでもある。

これまで私も妻も福祉の世界に二十数年勤め、大勢の高齢者と関わりを持つことができその都度精一杯のことを手助けさせて頂きましたが、一番身近な両親のためには何一つしてこれなかったとつくづく思い知らされる。今日まで自分たちの生活を自分たちの力だけで生き抜いてきた両親の頑張りや子への思いやりの気持ちを察しながら、他人事ではない高齢者家族の介護について思う者です。



# 『笑顔で生き生き』 ～ユニットケアの理念と実践～

理事長 平井 章



あはよう

平井 章さん 55

「自らを初めに、生きたと通称を受けた。生きてきたかと思いを、利用者本位の態づくの運びであらう。」と考へていた。平井理事長は、松江の特別養護老人ホームに勤務する中、ユニットケアの重要性を認識し、施設長に働きかけ、ユニットケアの実践を開始した。その後、施設長に就任し、ユニットケアの推進に努めた。現在は、社会福祉法人十字の園の理事長として、ユニットケアの理念と実践を推進している。

## 笑顔で『生き生き』

社会福祉法人十字の園の理念は、『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。』であり、聖書では、『夕暮になっても光がある』（ゼカリヤ書）です。

私たちが日々関わる高齢者の方々は、人生の先輩であり、社会を築いて来られた方々です。尊敬の念を持ち、人格を尊重して、お一人ひとりに豊かな生活を保障していかなければなりません。それを実践する方法として「ユニットケア」は有効です。既存施設の中におけるユニットケアの実践例として、静岡ユニットケアセミナーで講演した内容を紹介します。

### 1. ユニットケアをはじめた動機

特別養護老人ホームは「生活の場」であると言いつつも、社会での生活と施設での生活に隔たりを感じました。施設の質、サービスの質、職員の質を総点検して、より良い施設作りを目指し、ユニットケアに取り組みました。

### 2. ユニットケアの成果

利用者にも職員にも笑顔が増えました。また、改善事項が生じたとき、謙虚にそれを受け止め改善に取り組む姿勢が生まれました。何より、一人ひとりの利用者に目が向けられ、個人の要求（ニーズ）を受け止め、その実現に向けた取り組みが増えました。

### 3. ユニットケアの課題と今後の取り組み

ユニットケアをより充実していくためには、ユニットの大きさと配置職員の人数、生活環境の整備が課題です。また、職員の質、サービスの質の向上、ユニットケアの理解の浸透も課題です。より良い施設作りのために、計画的に課題に挑戦していきたいと思えます。具体的には①ユニットの細分化、②浴室の改修と入浴設備の購入、③四人室の区画による個室化、④逆デイ、⑤ボランティアの確保、⑥職員の資質向上、⑦ショート専用ユニットの実施、⑧老朽化部分の改築により全室個室のユニットの実現。

## 4. 既存施設でのユニットケアの実践 第1段階（98年6月～99年3月）

社会の観点から施設の生活や介護を点検した時です。職員は、毎日一生懸命働いていました。しかし、契約施設であるケアハウスを経験してきた私にとっては、職員の言動や利用者の姿に疑問を感じました。これまで施設で常識として行ってきた内容を総点検してみました。

## 第2段階（99年4月～00年3月）

ユニットケアを試行した時です。ひとりひとりに心が向けられるようにと、利用者と職員を小集団に分けた運営を試みました。「ユニットケア」の言葉が登場した頃です。また、運営の組織改革をしました。運営の方針が一人ひとりの職員に伝わることと、職員の声が運営に反映できる組織です。リーダーの育成も始めました。

## 第3段階（00年4月～01年4月）

職員・施設・利用者・介護が変わる「改革」の時です。外部講師を招き、年5回の研修を企画しました。講師からの「十字の園は中の下、下の上だ」の評価はショックでしたが、内部研修、外部研修、施設見学、自主的を含め研鑽を深めました。利用者本位の「生活の場」のために、看護師を含め一斉にユニホームを脱ぎ、サービス基準指針を作成し、生活時間、勤務時間の変更もしました。職員の意識が変わりました。

## 第4段階（01年5月～現在）

ユニットケアへの本格的取り組みの時です。ハード・ソフトに職員が目が注がれ、サービス内容や生活環境の改善に行動してきています。施設理念とサービス基準指針の学び、生活感のある備品の整備、建物の改修、介護についてのプロジェクトチームの取り組みによって、着実にユニットケアへの改革は前進しています。

改革を進めながらも忘れてならないことは、「法人・施設の理念」への実現です。一人ひとりに「生きる希望」を創ることで



# 十字の園という名前

理事 飯島 英雄



「十字の園」という名前の施設は、社会福祉法人十字の園が経営する浜松、伊豆高原、御殿場、松崎だけかと思っていましたが、他にも「十字の園」という施設があるのに気づきました。平井理事長は、「知っていますよ。ある施設からは「十字の園」という名前を使うことを了解してほしいという連絡もありました」とのこと。これが営利事業であれば営業妨害とか商標権の侵害という問題になるところです。

インターネットで検索すると、大阪寝屋川市と福島市に「十字の園」という施設が見つかりました。福島の十字の園はキリスト教関係らしいので、更に検索してみると、創業者は日本キリスト教団福島伊達教会の長老で私の知っている人でした。興味あるのは、ここには「エデンの園」という施設もあります。寝屋川の十字の園は教会関係かどうかわかりません。

日本で初めての老人福祉事業として十字の園が働きを始めたとき、「十字の園」という名前はあまりふさわしくないのではないかという意見も静岡県側にあったようですが、十字架についてまで人を愛してくださったキリストにならって働きをするのだから、この名前しかないということで決まったとのこと。

そんな「十字の園」という名前があちらこちらで使われているのは、私たちの十字の園が目まされてきたからでしょう。これからはいっそうよい働きを志して行きたいものです。

十字園特別展の開催に寄せて

## 「わたしはまことのぶどうの木」

島田 愼平



十字の園の理事会では、伝統的にヨハネによる福音書15章の「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である・・・」（1節～10節）が読まれる。監事時代何故ここが読まれるのだろうかと考えた事がある。

「十字の園30年史」で綿鍋さんは、「夕暮れになっても光がある」（ゼカリヤ書）を「事業の目標」の聖句として位置付け、そして「十字の園はマタイ10章のような指導理念としての特定の聖句を持っていません。その理由は、聖隷精神の本流をわたしたちは継承したいのだ、と言う願いがあったからです」と述べる。

綿鍋さんは、十字の園発足当時の聖隷の状況を「聖隷が時代の要請に応えるべく、幾多の困難を乗り越えて、拡大と近代化、良い意味での世俗化への道を大きく歩み出した」と書き、ハニ姉妹や鈴木生二さんたちは、聖隷が近代化し、大きくなっていく過程の中で、マタイ10章に表わされた聖隷の精神が薄れ消えていくことに危機感をもち、十字の園を別法人で運営することを決断されたと書いている。

そんな彼らに語りかけられたイエスの言葉が、「わたしにつながっていなさい、わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながってなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながってなければ実を結ぶことはできない」（ヨハネ15章4節）ではなかったのではないか。

浜松十字の園の正面にある「夕暮れになっても光がある」の石碑の裏に、ハニ姉妹の「定礎の祈り」が彫られているのを初めて知った。「イエス・キリストよ あなたの命令で この家をたてますから あなたがこの家の 基礎となってください」と。今の十字の園は、施設数、定員とも当時の聖隷の規模を大きく超える、又同じように変動の時期を迎えている。十字の園発足時の歴史に、先人たちの歩みを辿ってみる良い時期なのではないだろうか。



# 『十字の園特別展』

夕暮れになっても光がある (旧約聖書ゼカリヤ書)

聖隷クリストファー大学内  
歴史資料館にて

聖隷資料館の中に「十字の園特別展」が開設されました。10月7日にオープンしたこの展示は、来年3月までの半年の間、皆様に見ていただく特別展示です。

会場には、十字の園の発足秘話やご尽力を頂いた皆様の姿、現在に至るまでの歴史などを分かり易く紹介する資料を展示しています。この機会に、十字の園の精神とこれまで歩んできた道を多くの皆様に見て頂きたいとお知らせ致します。



## 開催式



十字の園特別展の開催初日には、近隣より関係者の皆様にお集まりいただき開催式を行いました。

讃美歌313「この世のつとめ いとせわしく」で始められた感謝礼拝では、遠州栄光教会・飯島英雄牧師により聖書：ルカによる福音書13章18～21節『神の国は何に似ているか。何にたとえよ

うか。…』が読まれ、祈りが捧げられました。

挨拶に立った十字の園・平井章理事長からは、1960年（昭和35年）春、定礎式に際してディアコニッセのハニ・ウォルフ姉妹により捧げられた「主イエス・キリストよ、あなたの御命令でこの家を建てますから、あなたがこの基礎となってください。」との祈りから歩みを始めた十字の園の精神が述べられました。そして、多くの皆様のご尽力により、今もこの精神が大切に引継がれて来た施設の歩みが語られました。

この後、会場では、パネルにある写真の1コマや展示物を見入る皆様から、創立時の思い出や当時の苦勞が話題となりました。

## 展示の紹介

聖隷歴史資料館の一部に設けられた展示場所には、十字の園の歩みを紹介するパネルを中心に、何の制度もない時代から創設に尽力を頂いた方々の働きの記録、チャレンジ精神に富んだ工夫と努力の品々、常に真の介護を求めた先人の歩みが展示されています。

展示品の中には、ハニ姉妹がドイツから提げてきたトランクや愛用のスリッパ、「羽仁」と



刻まれた印鑑、鈴木生二氏愛用の聖書、創立からのパンフレットや関連図書など興味深い

ものがあります。

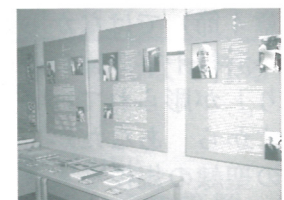
聖隷歴史資料館の中に聖隷グループ（体系樹）のコーナーがあり、そこには、幹の根元に教会があり、その上に聖隷福祉事業団、十字の園の枝が生えています。その枝から各事業の葉が茂っています。教会の祈りの中から生まれた十字の園を、歴史資料館にある聖隷の歩みとを併せてご覧いただき、今に引き継がれる「精神」を御理解いただければ幸いです。



書籍などの資料の展示



歴史を紹介する展示



共に歩まれた方々の紹介



## 映像による紹介 『十字の園の出来るまで』

会場では、「十字の園の出来るまで」を映像で見ることが出来ます。

映像の中には、ディアコニッセの姉妹が横浜港に来日した時の様子や長谷川保氏が心打たれた三重苦の児童たちに手話を教える映像「もの言う手」も紹介しています。

また、ハニ姉妹が老人ホーム設立に至る経緯や祖国ドイツに建設資金を求める旅に出られた当時の様子。十字の園が聖隷から独立の法人として発足した経緯や創設期に携わった方々の苦勞が、映像を通して、見る人に「十字の園の精神」を今に甦らせてくれます。

この他にも、鈴木生二氏、森本節夫氏などが

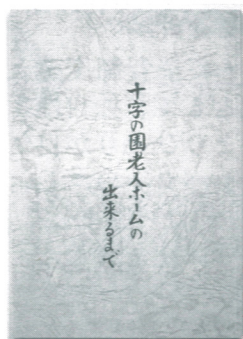
十字の園特別展では、残された資料を元に創設の歴史を14分のデジタル・ビデオ・ディスク（DVD）へ映像化しました。

写る「御殿場の思い出」、浜松十字の園の懐かしい写真を連続で映し出す「十字の園写真帖」も見ることが出来ます。

このデジタル・ビデオ・ディスクの映像は、永久に保管が可能なことから、後世に十字の園の創設を伝える貴重な資料の一つになると考えております。特別展会場にて映像を見ることが出来ない皆様には、ビデオテープでの貸出しが可能です。



## 本『十字の園の出来るまで』を再版いたしました



『十字の園老人ホームの出来るまで』は、元聖隷学園高等学校校長・西村ミサ先生が十字の園25周年にて講演されたお話を本にまとめたものです。1988年に発刊された小冊子ですが、このたび再版させて頂きました。

創立42年目を歩む今、職員の中には、ハニ・ウォルフ姉妹と一緒に働いた人は一人もいなく

なりました。初代理事長の鈴木生二氏を知る人も少なくなりました。

この本には、十字の園の創立に中心的にたずさわられたハニ姉妹、浜松ディアコニッセ母の家の姉妹たち、大勢の方々の並々ならぬご苦勞と、十字の園が大切にしている精神が詳しく語られています。十字の園特別展を機に、十字の園・創立の心を、この本から受け取り、受け継いでいきたいと思っております。

## ご招待状

展示は、来年3月まで開催されております。この機会に、多くの皆様が「十字の園特別展」に足をお運び頂きたく願っております。

会場へは、直接に出向かれても結構ですが、場所や開催時間の詳細については、

十字の園・法人

(☎ 053-436-9535)までお問合せ下さい。

聖隷歴史資料館(聖隷クリストファー大学内)  
十字の園特別展 開催のご案内



聖隷クリストファー大学内にある聖隷歴史資料館で、10月から来年3月まで、十字の園特別展を開催することになりました。貴重な写真・資料やハニ姉妹の来日時のトランクなどの展示もあります。また、映像による「十字の園の出来るまで」をご覧いただけます。ぜひお立ち寄りください。

開催期間 : 2002年10月から2003年3月  
展示会場 : 聖隷歴史資料館(大学新館2階)  
社会福祉法人十字の園 理事長 平井章



# 2002年度『十字の園大会』報告

松崎にて開催  
11月14～15日

今年度の十字の園大会は、松崎十字の園を会場に約100名の関係者が集まり開催されました。

松崎教会の星野正興牧師による開会礼拝に始まった今年度の大会では、基調講演に稲松義人氏、課題講演に津田耕一氏をお招きし、「福祉人の資質について」をテーマに展開されました。

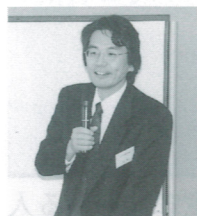
講演に続き、各施設からの事例発表、部会研修が行われましたが、特に本年度の部会研修は、各施設の職員がグループに分かれ「福祉」をテーマに夜遅くまでミーティングをするなど、研修色の濃い内容となりました。



大会2日目は、部会研修の成果とし前夜の熱い討議結果を「それぞれの場で活かしていく標語」として発表しました。

## ●基調講演

### 「十字の園の理念について」



#### 講師：稲松義人氏

(講師プロフィール)

社会福祉法人小羊学園理事長  
知的障害児施設小羊学園児童寮施設長  
社会福祉法人十字の園理事

このたび基調講演を頂いた稲松氏は、かつて同じ法人にあった身障施設・小羊学園の理事長でもあり、十字の園の中でこれまで共に歩かれた方です。特に開催地・松崎十字の園は、小規模身障施設を併設しており、聴講者にとって講演から多くの有益なものを得ることが出来ました。

「理念は人から聞くのではなく、ひとりひとりがそれを感じることが大切。十字の園は聖書が基盤になっている。聖書を手にし、何を理念としているのか、考えてほしい。」との言葉から始められた講話の一部を以下に紹介させていただきます。

- ・利用者との交わりに携わることが許された私たちが、高齢者福祉に携わる喜びについて。
- ・自分の中に力が与えられ、それに気づき、その力で生きて行く。そんなエンパワメントを引出す支援をすることが私たちの役割。
- ・ボランティアを超えたディアコニア（仕える）の心で、神様のニードに応えることが十字の園の理念。そして、「私はまことのぶどうの木、私につながっていなければ実を結ぶことができない」の言葉を通し、「私」とは誰、「つながっている」って何、と、講演を締めくくられました。

## ●課題講演「福祉サービスの向上と

### 施設職員の専門性について」



#### 講師：津田耕一氏

(講師プロフィール)

関西福祉科学大学社会福祉学部助教授  
ホーリスティック社会福祉研究所研究員  
社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団評議

課題講演では、「介護保険・支援費制度導入により利用者には選ばれる施設として、独自性・理念に基いた施設の特長をひとりひとりが自信を持って言えるか？」と、インパクトのある言葉が講師の津田氏より出席者に向けられました。

そして、講話は、以下のように続きました。「需要と供給のバランスから、努力しなくても利用者は集まる現状の中で、甘んじていたら福祉サービスの向上は望めない。私たちの仕事は介護業務ではなく、利用者の権利擁護を実現することである。人柄、熱意だけでも介護はできるが、専門性（価値観・倫理・理念）をおさえておかないと利用者の利益につながらない。そのために、自ら学び、実践し、考える姿勢が求められる。本質を吟味し、実践の中で利用者が望んでいることを探し当てていくことが人権尊重・利用者主体・自立生活につながっていく。「出来ない」ではなく、「何が出来るか」「どうすれば出来るようになるか」をチームとして考え実践できる施設であってほしい。利用者が、選んでよかったと思われる施設になるための努力が必要である。」

## 標語の紹介 部会研修の皆さんが創られた標語です

- ・新鮮な発見 出来たらイイ感じ
- ・ありのまま。ふれ愛（十字の園）

- ・あなたの笑顔 私の幸せ みんなで作るよりそいケア
- ・理想VS現実 Winner “Love”
- ・めざせ 心からの祈り 心からの笑顔



# 各施設のトピックス(特派員報告)



## 素敵な居室ができました

浜松十字の園 今井優子

浜松十字の園の集会室北側に位置する通りに、10月1日、明るく快適な居室が完成しました。

薄暗く、まるで独房(?)の観を呈していた旧うめ通りの居室が、ガッガッガー、ズッズッーという凄まじいごう音と砂煙をともなって工事が始まったのは9月の初め。生活の場に隣接しての改装工事は当初の予想を上回るものでしたが、事故もなく無事完成に至ることができました。9月下旬、その覆われていたベールを脱いだときには、まるで新築のワンルームマンションの様な美しい居室に誰もが驚嘆しました。

利用者の皆さんに喜んでいただける居室とは、使い勝手のよいトイレとは。今回の改装にあたって、多くの職員が夜遅くまで幾度となく論議を交わし、創りあげた居室です。現在、この素敵な居室を中心に、皆さんの憩いの場となるサロン計画を進めています。

ソフト面(介護内容)もハード面(建物)も生まれ変わっていく浜松十字の園に、ご期待を!



## 逆デイの家「きまま」の開設

御殿場十字の園 藤永敬士

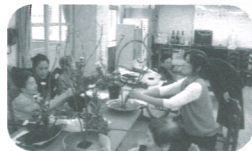
御殿場十字の園では、慣れ親しんだ家庭の雰囲気施設でも維持し、この間の断絶をなくすように努力しています。このほど、逆デイの家「きまま de なごみ」を設けました。お年寄が、施設の近くに借りた民家に昼間移動し、なじみの環境に近いところで過ごす、元気だった頃的生活行動が自然に出てきて、激しい徘徊もなくなり落ち着いてきたとの例が全国的に報告され始めています。デイサービスは家庭から施設へ行きますが、その反対の動きをしますので「逆デイ」と呼んでいます。十字の園でも、ユニットケアを採用し、空間にはソファや衝立てを置いてはいますが、どうしても3階建てコンクリートの箱の雰囲気は消し去れません。そこで近くに古い家を借りました。廊下の少ない、昔風の家です。畳を入れ替え、ふすまを改修し、戴いたタンスやイスを入れると、よき時代の和風の家が再現されました。ここで数人ずつ利用者は、職員、ボランティアと1日を過ごすこととなります。名前は職員が、思いを込めて付けました。

## 昔とった杵柄

伊豆高原十字の園 中島梨枝子

最近、利用者の方がちょっと楽しそうだった話題を二つ。

八月からお花の先生がボランティアで教えに来てくれています。職員と利用者の方が肩を並べて教えていただきます。同じ材料を使っているのに見事にそれぞれの個性がでます。今回Kさんは息子さんの希望で参加しました。そしていつもより



ずっと生き生きと話し、一人で素敵に活かしてくれました。過去に習った事があるようで、その感性は失われず皆感心する事しきりです。



又ある日、5~6人の利用者の方が、おしほり巻が終わった後、お月見の団子を作ってくれました。まあ、きれいに、いつもより会話も弾み、あつというまにできあがりしました。十五夜さんはちょっと雲がかかっていたけれど甘辛く煮た団子はさぞかしおいしかったことでしょう。

伊豆高原は10月からユニットになります。ユニットになってこういう機会が増えるとよいですね。

## ゴジカラ村見学

アドナイ館 三輪真理子

ケアハウス職員四人で、愛知県長久手町にあるケアハウス「ゴジカラ村・雑木林館」に見学に行きました。その名の通り、自然の木に囲まれた静かな中に建っていました。中に入ると木の香りがプーンとして来て心地良い感じがします。それもそのはず、内装は可能な限りムクの木材を使用していて、廊下も階段も壁も板貼りです。



各居室も自然の木を切り倒さずに建ててあるので様々な間取りで、外の眺めも全部違います。各玄関の外に、もう一枚格子戸を入れる事により、ずい分自宅感がアップしています。とかく画一的なハモニカ形式になりがちな施設住居の発想を、十分にくつがえしてもらいました。



今後、新しい建築の際には思い切った発想と緻密な工夫が必要でしょう。

## 全てが「初」のことばかり

松崎十字の園 山本隆弘

季節外れの話題で恐縮です。9月15日に初の敬老会が開催されました。施設行事は行わない方針でしたが、職員と入居者の方々の強い要望のもとユニット主体で準備がなされました。特養フロアーの中心にある相談室には、8月から歌や大正琴・手作り楽器などの様々な音色が聞こえ楽しみに待たせていただきました。当日は、職員と入居者そして入居者の家族など身内の方が集まり、入居者代表による開会宣言により開幕し、行事に付き物の難しい長話は施設長の5分だけ。午前中はユニット毎に日頃練習してきたことの披露会、午後



はショート利用中にハーモニカの演奏をして下さったSさんをお招きしての演奏会、近隣の中学生やボーイスカウトの方々による合唱、入居者代表による閉会宣言で幕を閉じました。歴史がない分、自由で家庭的な集いになったと思いますし、何よりも入居されている方が生き生きと歌ったり演奏したりしている姿を目にし、これが「松崎らしさ」なのかなあと思いました。やることなすこと全てが「初」。次はどのような「初」が待っているのでしょうか。楽しみです。





## ◆ 障害者福祉支援費制度が始まります ◆

御殿場十字の園 身体障害者デイサービスセンター  
「くろっちょ」主任 岩田 和 幸

平成15年4月から支援費制度が導入され、障害者福祉サービスの利用の仕方が変わります。この支援費制度が目指すものは、障害者の自己決定を尊重し、障害者自身が在宅サービス事業者や障害者施設と対等の立場に立ちサービスを受けるという新しい利用の仕方です。

従来の、「措置制度」では、サービスの利用を行政（市町村福祉事務所）が決めてきました。これからは利用者自身が受けたい福祉サービスと事業者を選択することになります。また、利用者から選ばれた事業者・施設はサービスの質の向上に努力することが求められています。

利用者がサービスを受けるまでの仕組みは次のようになります。①市町村が相談事業の窓口で、サービス利用の希望についての相談を行ない、必要なサービスの支給申請をします。②市町村は、所定の方法で聞き取りを行ない、支給の要否について審査し支給決定をします。③支給決定後、居宅支援（デイサービス、ショートステイ、ホームヘルプサービス等）の場合には、サービスの支給量、支給期間、利用者負担額、施設支援の場合は、支給期間、障害程度区分、利用者負担額の示された受給者証が交付されます。④利用者は、都道府県知事から指定された事業者・施設の中から選択して、支給決定を受けたサービスの提供を受けます。このときに、事業者・施設と利用者とは相互に「契約」を結ぶことが新たに必要となります。

皆様の 暖かい御支援をお待ちしております!!

〒431-1304 静岡県引佐郡細江町中川 7220-11  
社会福祉法人 十字の園  
理事長 平 井 章  
銀行振替 静岡銀行細江支店 普通 0015345

### <あとがき>

悲喜、明暗、禍福、それらが交錯する。いつの年もそうかもしれないが、今年はその交錯が、一段と激しかったような気がする。（朝日新聞〈天声人語〉より）それらのことに、じっくり向き合う間もなくあつという間に通り過ぎていくという感を持った（拉致問題はこれからの課題であるが）

2003年はどんな年になるのかと思いつつ、マザーテレサの言葉、

Anyway（でもとにかく）を思う。

道理に合わないこと 色々あるけれど、“でもともかく”愛を行いなさいと。

## ◆ オリーブ細うで誕生・繁盛記 ◆

松崎十字の園 長倉 浩之

賀茂地区に初の身体障害者療護施設として松崎十字の園“オリーブ”が産声を上げ、はや半年が過ぎようとしている。最近になってようやく開設当時を振り返ることが出来るようになった。

オリーブのサポーター（介護士）が全員揃ったのが開所3日前、打合せもあわただしい中でスタッフは、20名の入所利用者の方々の受け入れを始めた。“身体障害”や“知的障害”の概念や特徴、処遇上の留意点など掴めぬまま、様々な障害を持つ方の生活をサポートする現場では、日々わきあがる要望・苦情に対し、スタッフにとっては“毎日が戦争”であったと思う。そんなスタートの中で幸いだったのが、高齢者部門の受け入れが当初少なかった事である。おかげで、施設全体が一丸となって、笑顔を絶やさずことなく利用者に接してくれた毎日だった。それが現在の利用者の方々との間で垣間見ることが出来ます。

最近、松崎海岸で行われた太鼓フェスティバルに12名の利用者の方々が出かけられた。夕暮れ時、松明の中に浮かび上がった太鼓の演舞に見入っている皆さんを見て、地域との交流の良さ、これからも“地域へ一歩”

を忘れることなく、利用者の方々の“3年先”“5年先”を見つめた生活支援に向けて、スタッフ一同取り組んで行きたいと念じた。



### Anyway(でもとにかく)

- ◇人々は道理に合わず、非論理的で、自己中心的になりがちです。でもとにかく、彼らを愛しなさい。
- ◇たとえ、あなたが喜ぶことをしても、人々はあなたを告発し、あなたを利己的な人だとか、秘められた野心を持つ人だとか言うでしょう。でもとにかく、善いことをしなさい。
- ◇あなたの長い努力が生んだ良い実りも、人々に無視され、明日は忘れ去られるでしょう。でもとにかく、良いことをしなさい。
- ◇誠実・正直であるために、あなたが傷つけられることもあるでしょう。でもとにかく、誠実・正直でありなさい。
- ◇数年かけて、こつこつと築き上げてきたものが、一夜にして崩れ去るかも知れません。でもとにかく、築き上げていきなさい。
- ◇人々はほんとうに助けを必要としています。しかし、実際に手助けすると責められることもあるでしょう。でもとにかく、手助けしなさい。
- ◇持ち物のなかつて、一番よいものを人々に与えなさい。面と向かつて苦情を言われるかも知れません。でもとにかく、持ち物のなかつて、一番よいものを人々に与えなさい。

インドのマザー・テレサの施設「子供の家」の壁にある詩

